放流種苗の生産施設における
防疫対策と遺伝的多様性確保に関する
研修会（web研修会）

令和5年12月22日　13:00～

趣　旨

都道府県の区域を越えて回遊するヒラメ等の広域種における種苗生産や放流等は，第８次栽培漁業基本方針に基づき策定された「効率的かつ効果的な種苗生産及び種苗放流に関する計画（広域プラン）」のもと，関係都道府県の連携・共同による取組みを推進。

広域プラン策定海域・魚種

太平洋北ヒラメ広域プラン抜粋

３．目標とする資源水準等（略）
４．目標達成に向けて取り組む事項
（１）親魚養成・受精卵の融通
（略）人工種苗放流に係る遺伝的多様性の確保のため、「人工種苗放流に係る遺伝的多様性への影響リスクを低減するための技術的な指針」（独立行政法人水産総合研究センター、水産庁、平成27年3月）の準拠に努める。
（略）
また、種苗放流に関する防疫的措置については、引き続き、「防疫的見地からみた放流種苗に関する申し合わせ事項(1)について」日本栽培漁業協会（1999）を遵守する。

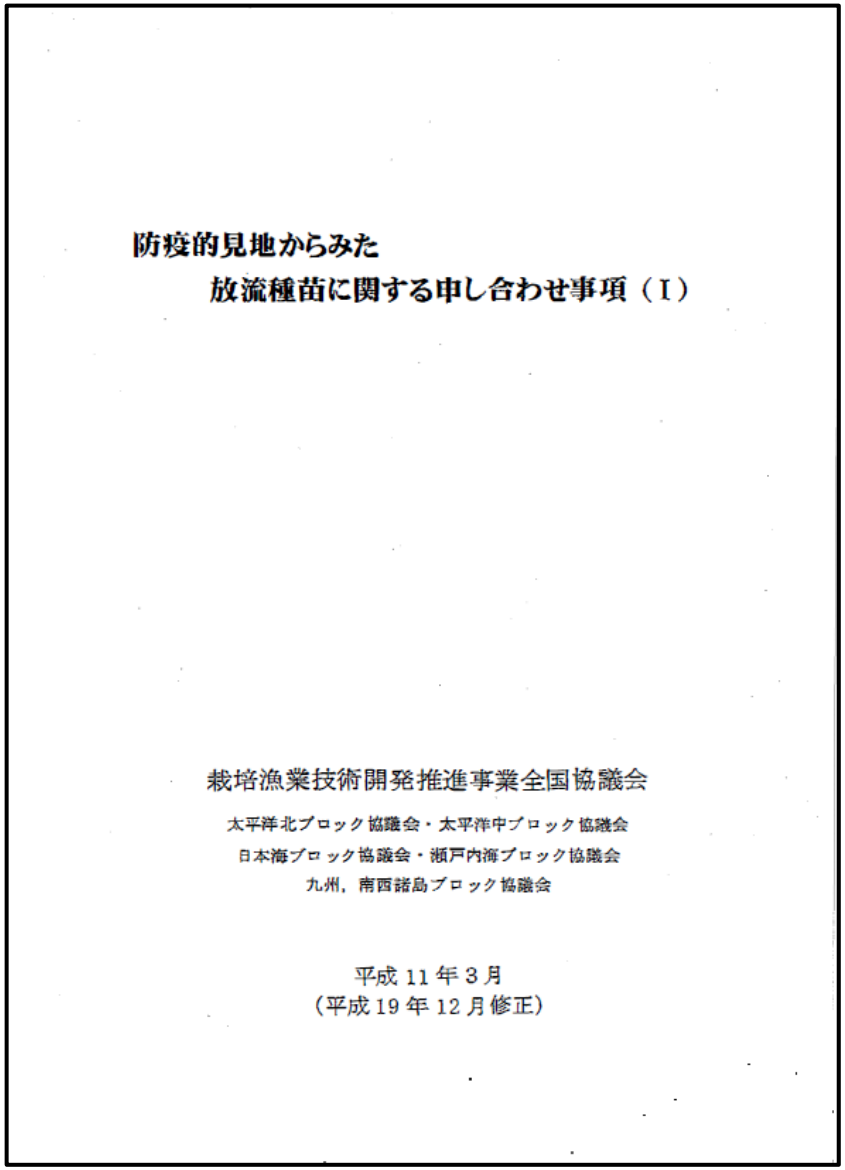
趣　旨

本研修会では

- 種苗生産施設における防疫対策
- 種苗放流による遺伝的多様性の低下等のリスク管理

について研修を行い各々の取り組み状況について再確認し責任ある栽培漁業に資する。

防疫対策



防疫的見地からみた
放流種苗に関する申し合わせ事項（Ⅰ）

栽培漁業技術開発推進事業全国協議会

太平洋北ブロック協議会・太平洋中ブロック協議会
日本海ブロック協議会・瀬戸内海ブロック協議会
九州，南西諸島ブロック協議会

平成 11 年 3 月
（平成 19 年 12 月修正）

- 感染症は，種苗（宿主）と寄生体のバランスが崩れた結果として起こるとされている
- 種苗が本来持っている生体防御機能を効率的に引き出すため，日常の飼育管理を充実することにより，放流種苗の良好な健康状態を維持する必要
- 病原体の伝播は卵，稲苗，飼育器具等や作業者の移動などによって起こることから、まず，種苗生産施設では常に消潔な飼育環境を維持することが重要
- 病原体を飼育施設に持ち込まないことを防疫の基本とし，感染の機会を少なくする努力が必要

遺伝的多様性低下等のリスク管理

人工種苗放流に係る遺伝的多様性への
影響リスクを低減するための技術的な指針

独立行政法人　水産総合研究センター
水産庁
平成 27 年３月作成

水産庁HP「栽培漁業について」より
(https://www.jfa.maff.go.jp/j/saibai/saibai.html)

- 平成9年にノルウェーで開催された第1回栽培国際シンポジウムにおいて、放流種苗の遺伝的多様性が議論されたのが契機
- 平成16年に水産庁が策定した第5次栽培漁業基本方針に取り入れられ、責任ある栽培漁業の推進という観点から、放流魚による天然個体群の遺伝的多様性への影響の配慮が生産現場に求められてきた
- 第6次栽培漁業基本方針に盛り込まれ、遺伝的多様性への影響リスクを低減するための技術的な指針を「人工種苗放流に係る遺伝的多様性への影響リスクを低減するための指針」として、平成27年に策定

研修内容・講師

『種苗生産施設における防疫対策』

国立研究開発法人水産研究・教育機構　水産技術研究所
養殖部門　病理部　病原体グループ　研究員　前田　知己

『種苗放流に係る遺伝的多様性の低下等のリスク管理』

国立研究開発法人水産研究・教育機構　水産技術研究所
養殖部門　育種部　系統開発グループ長　菅谷　琢磨